

東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート

No. 127

2024年10～12月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。

当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81

TEL 0172-33-8404 業務部 -2025.1.31-

HP <https://www.shinkin.co.jp/toshin/>

《今回調査のポイント》

● 10～12月期（今期）業況判断DI値やや改善で推移

10～12月期の業況判断DI値は、前回調査比3.8ポイント上昇の▲2.4とやや改善し、前回予想値(▲0.7)に対しては1.7ポイント下回る結果となった。項目別では、売上・受注で5.6ポイント上昇の6.6、売上数量は3.2ポイント上昇の3.5、利益では5.2ポイント上昇の▲4.1と全ての項目でやや改善となった。

今期DI値は前期に比べやや改善し昨年同期も上回る結果となる。業種別では運輸業と卸売業が総合的DI値を引き上げ、地場産業のりんごに期待する結果となる。飲食業に於いては大きく悪化し「材料・仕入価格の上昇」、「経費の増加」等が要因として挙げられている。



業況お天気図

● 1～3月期（来期）各項目別DI値悪化を見込む

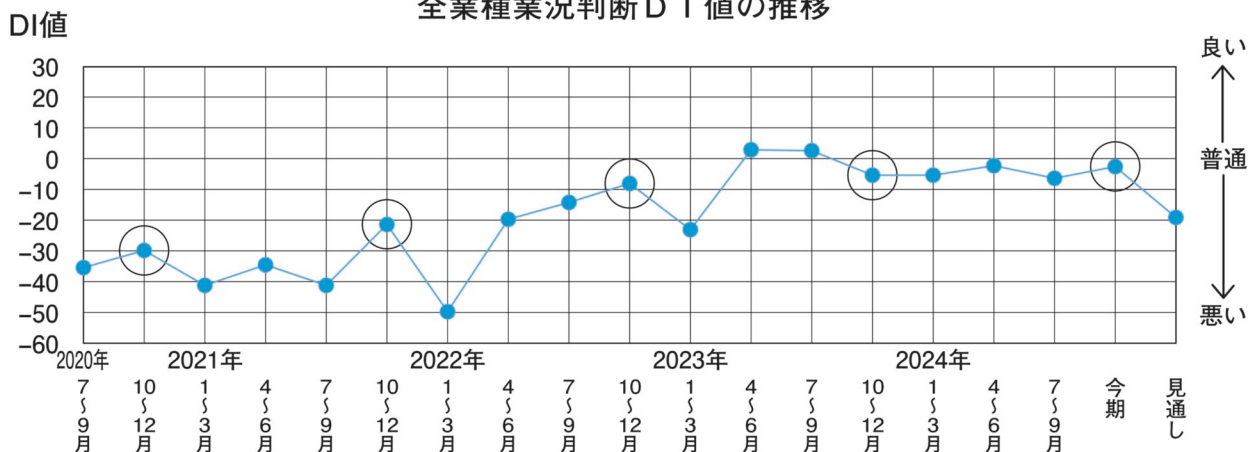
1～3月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比16.6ポイント低下の▲19.0と悪化の見通しとなった。項目別では、売上・受注で21.4ポイント低下の▲14.8、売上数量も22.8ポイント低下の▲19.3、利益でも18.0ポイント低下の▲22.1と全ての項目で悪化した。

業種別DI値は飲食業が21.0ポイント改善の26.3となったものの、その他の業種は全て悪化予想で、2月は例年通り閑散期を迎える事が大きな要因となっている。年始や卒業シーズン等のイベントもあるが総じて「物価高の影響」、「人材不足」等の悪化要因が継続されており厳しい見通しである。



業況予想お天気図

全業種業況判断DI値の推移



お天気図

好調



低調

(お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

全業種総合

回答企業数290企業（回答率100.00%）

概況

～総合的業況判断DI値 やや改善で推移～

総合的業況判断DI値は、前期比3.8ポイント上昇の▲2.4とやや改善となった。

業種別での業況判断DI値は、運輸業が60.0ポイント上昇の20.0、卸売業も41.3ポイント上昇の24.1、不動産業も11.1ポイント上昇の▲22.2、製造業も6.2ポイント上昇の▲21.9、サービス業も4.7ポイント上昇の▲2.4、小売業は横這いの▲2.2、建設業では3.4ポイント低下の▲8.6、飲食業でも52.6ポイント低下の5.3となった。5業種が改善し、3業種は横ばいや悪化となり飲食業が大幅悪化となった。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料仕入価格の上昇」154先、「人員の不足」91先、「売上の低迷・減少」87先、「経費の増加」75先、「利幅の縮小」63先と上位を占めた。

前回調査比、「材料仕入価格の上昇」は3先増加、「人員不足」は4先増加、「売上の低迷・減少」は1先減少、「経費の増加」は9先増加、「利幅の縮小」は6先増加となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が31先で前期比0.0、設備投資実施予定割合は10.7%で前期比0.0となった。業種別では、製造業（土地・機械）18.8%、飲食業（建物・機械）15.8%、サービス業（建物・機械）14.3%、卸売業（建物・機械）10.3%、運輸業（建物）10.0%、建設業（土地・機械等）8.6%、小売業（土地・機械等）7.7%、不動産業は予定なしの結果であった。

資金繰りDI値は、前回調査比4.8ポイント上昇の▲6.9とやや改善、今期借入した企業は19.3%と前回調査時（21.7%）より2.4%減少となった。

来期の見通し

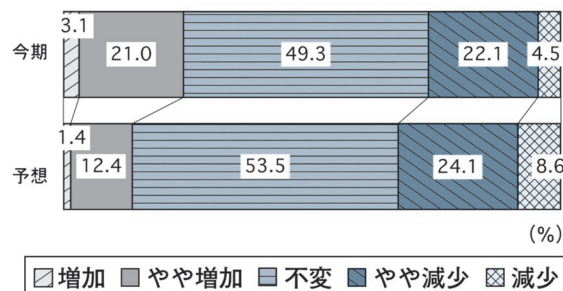
～総合的業況判断DI値 悪化の見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比16.6ポイント低下の▲19.0と悪化の予想となった。

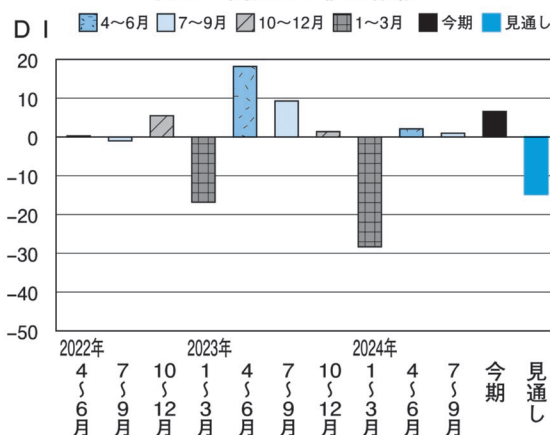
業種別では、飲食業が21.0ポイント上昇の26.3、不動産業は横ばいの▲22.2、小売業は8.8ポイント低下の▲11.0、サービス業も16.7ポイント低下の▲19.1、建設業も19.0ポイント低下の▲27.6、製造業も21.8ポイント低下の▲43.7、運輸業も30.0ポイント低下の▲10.0、卸売業でも55.1ポイント低下の▲31.0となり来期の見通しは、飲食業が改善し、横ばいが1業種その他業種は悪化となった。

今期資金手当てした先が19.3%、今後資金手当て等借入を予定している先は14.8%となっている。

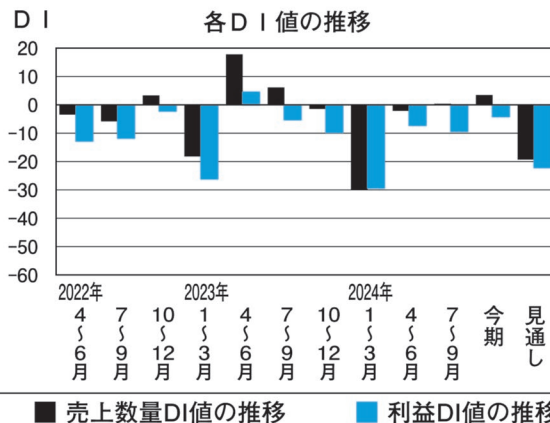
業況判断（全業種）



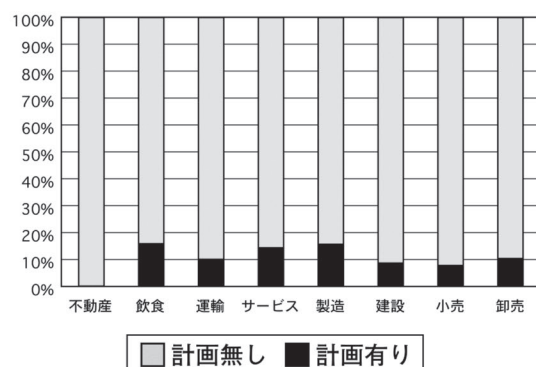
売上・受注DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無



卸売業

回答企業29企業

概況

～業況判断DI値 大幅改善で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比41.3ポイント上昇の24.1と大幅に改善し、前回調査予想値(10.3)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注では48.3ポイント上昇の27.6、売上数量は34.5ポイント上昇の6.9、利益でも37.9ポイント上昇の6.9となった。

主要産業である令和6年度産りんご取扱いが本格化し、業況は好調に推移。米も市場価格が高騰し商況活発で売上増加となった。

分野別の状況

～総合的業況は大幅改善で推移～

米穀卸売業では外食産業や海外からの引合い強く市場価格が高騰。販売価格も高値で推移が見込まれている。

タイヤ卸売業は需要期となり売上増加するも、自動車販売業者の販売台数落ち込みの影響から総体的には悪化傾向との事。

令和6年度産りんごについては、品薄から産地価格高騰、市場価格も高値で推移しているが売上高や利益については総じて減少傾向であった。

来期の見通し

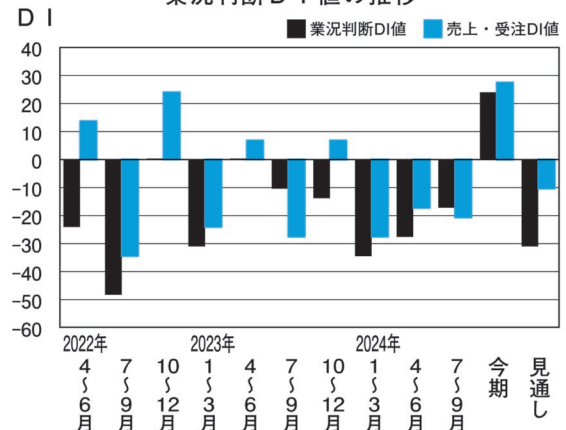
～業況判断DI値 大幅悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比55.1ポイント低下の▲31.0と大幅悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で38.0ポイント低下の▲10.4、売上数量も31.0ポイント低下の▲24.1、利益でも31.0ポイント低下の▲24.1と悪化の見込みとなった。

年間を通して閑散期となるため各事業者とも悪化の見通しとなる。りんごは輸出が好調な時期を迎える事から期待大きい。

業況判断DI値の推移



小売業

回答企業91企業

概況

～業況判断DI値 横ばいで推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比横ばいの▲2.2、前回調査予想値(▲2.2)と同様の結果となった。項目別では、売上・受注で11.0ポイント上昇の11.0、売上数量が8.8ポイント上昇の9.9、利益でも7.7ポイント上昇の▲2.2となり、すべての項目でやや改善となった。

季節要因やイベントから食料品・アルコール類を中心に販売好調に推移。自動車販売はやや低調に推移。燃料等小売は灯油の需要期となり売上は増加した。

分野別の状況

～総合的業況は横這いで推移～

冬季間に入り灯油販売は増加。ガソリン補助金縮小から値上げを実施したが販売数量や利益に影響はなかった。

タイヤ販売に於いては、卸売価格の値上ががあったが、業況は変化なく堅調に推移。

青果物2月は例年通り閑散期を迎える事が大きな要因となっている。販売では、りんごのシーズンに入り贈答用の販売が増加し業況堅調に推移した。

農機具店では農繁期が終了したことから、メンテナンスや修理依頼で売上は増加。農機具購入補助金審査が厳しくなったことから買換えは減少した。

来期の見通し

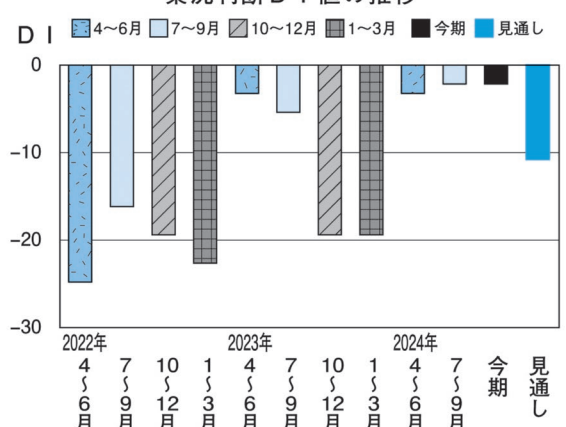
～業況判断DI値 やや悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比8.8ポイント低下の▲11.0と、やや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で14.3ポイント低下の▲3.3、売上数量は20.9ポイント低下の▲11.0、利益でも11.0ポイント低下の▲13.2となった。

年始や卒業シーズン等イベントもあることから飲食業については期待あるも、例年通り2月は閑散期となるため各事業者とも悪化の見通しである。

業況判断DI値の推移



建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断D I 値 やや悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比3.4ポイント低下の▲8.6とやや悪化し、前回調査予想値(6.9)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注が22.4ポイント低下の▲12.1、売上数量では19.0ポイント低下の▲15.5、利益では1.7ポイント上昇の▲6.9となった。D I 値は2項目で悪化、1項目でやや改善となった。

各業種に於いて、公共工事を中心に受注はあるものの、人員不足による受注調整や資材高騰の影響を受け総じて低調に推移。

分野別の状況

～総合的業況はやや悪化で推移～

造園工事業では、雪囲いの受注が本格化し業況は好調に推移。但し、固定客の減少は続いている。

住宅新築は資材高騰により坪単価が高騰し低調、リフォーム工事が増加し売上を確保している。

舗装工事や解体工事は受注あるものの、人員不足により受注調整必要となり人材確保が急務となる。

来期の見通し

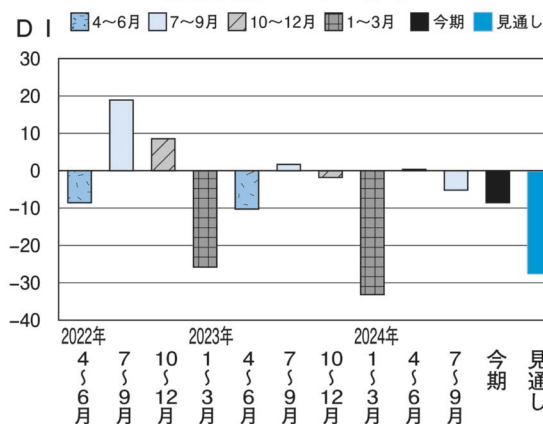
～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比19.0ポイント低下の▲27.6と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で27.6ポイント低下の▲39.7、売上数量も22.4ポイント低下の▲37.9、利益でも34.5ポイント低下の▲41.4と大幅な悪化となった。

来期は閑散期となるため悪化の見通しである。除雪事業を受注している業者に於いては降雪量の多い予報となっている事から期待している。

業況判断D I 値の推移



製造業

回答企業32企業

概況

～業況判断D I 値 やや改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比6.2ポイント上昇の▲21.9とやや改善し、前回調査予想値(▲9.4)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注は横這いの▲6.3、売上数量は3.2ポイント上昇の▲3.1、利益では6.3ポイント低下の▲18.8となった。

食品加工業では、原材料の高騰から利益は減少傾向。製菓業は各種イベントから業況は堅調に推移。建築資材製造業も受注安定しているが、原材料価格上昇から利益確保に苦慮している。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

衣料縫製業では、スーツ・学生服需要期であり業況堅調に推移。「人員不足」により生産が落ち込む事業者もあった。

りんごの加工業に於いては、仕入価格高騰により生産量が減少している。

印刷業では企業からの年賀はがきの受注が大きく減少しており厳しい状況。

来期の見通し

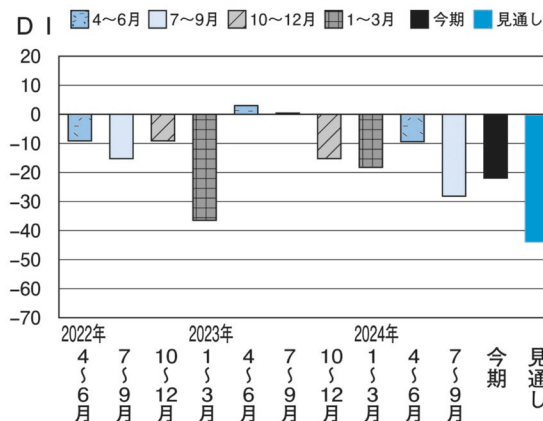
～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比21.8ポイント低下の▲43.7と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で15.6ポイント低下の▲21.9、売上数量でも21.9ポイント低下の▲25.0、利益でも6.2ポイント低下の▲25.0となった。

年始や卒業等のイベントによる期待はあるものの、例年閑散期であるため、各事業者とも悪化を見込んでいる。

業況判断D I 値の推移



サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断D I 値 やや改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比4.7ポイント上昇の▲2.4とやや改善となり、前回調査予想値(▲7.1)も上回る結果となった。項目別では、売上・受注で14.3ポイント上昇の11.9、売上数量は9.5ポイント上昇の9.5、利益でも9.5ポイント上昇の0.0と項目別でもやや改善となった。

宿泊業は紅葉時期に集客できたが、イベント少なく例年並みに推移。自動車関連の車検・整備等は大きな変化なく推移した。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

クリーニング業では衣替えの時期となり高単価の取扱いが増加したが、薬剤の値上がりから利益は不変となった。

理容・美容業に於いても12月は多忙となり業況好調に推移。薬剤等の原材料価格が高騰し利益は減少傾向。

自動車教習所は季節要因から生徒数減少となるが、二輪車免許の取得申込みが増加傾向との事であった。

来期の見通し

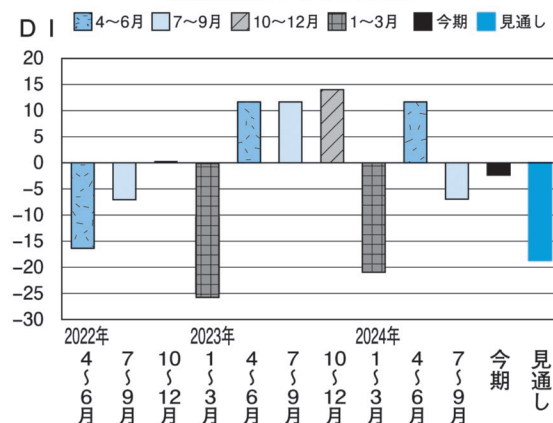
～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比16.7ポイント低下の▲19.1と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で33.3ポイント低下の▲21.4、売上数量も30.9ポイント低下の▲21.4、利益でも19.1ポイント低下の▲19.1と悪化の見通しとなった。

季節要因から全体的には業況が落ち込む時期となる。異動や卒業シーズンを迎えるため、関連業種については売上増加を見込んでいる。

業況判断D I 値の推移



運輸業

回答企業10企業

概況

～業況判断D I 値 大幅改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比60.0ポイント上昇の20.0と大幅に改善し、前回調査予想値(30.0)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で80.0ポイント上昇の50.0、売上数量も70.0ポイント上昇の40.0、利益でも50.0ポイント上昇の20.0と各項目大幅改善となった。

貨物運輸はりんごの運搬が本格的に始まった事で売上は増加した。燃料費高騰は高止まりし、利益確保が課題となっていることから、継続した価格交渉を続けている。

分野別の状況

～総合的業況は大幅改善で推移～

旅客運送業では、紅葉シーズンの売上は好調に推移したが、降雪期の業況は低調に推移。総じて業況は例年並みを確保した。

建設資材運送に於いては、工事現場へのコンクリート運送の受注増加し売り上げ確保に繋がった。

総じて受注は見込まれているものの「燃料価格の高騰」が共通の課題となっており、利益確保が急務となっている。

来期の見通し

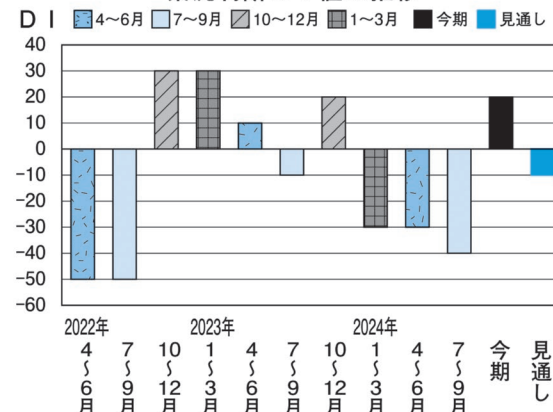
～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比30.0ポイント低下の▲10.0と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注が60.0ポイント低下の▲10.0、売上数量も50.0ポイント低下の▲10.0、利益でも50.0ポイント低下の▲30.0と悪化となった。

前期同様りんご運送の受注見込め業況は安定。除雪受注している事業者は降雪量から期待大きい。但し、燃料費高騰が継続して見込まれることから、厳しい見通しとなった。

業況判断D I 値の推移



飲食業

回答企業19企業

概況

～業況判断D I 値 大幅悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比52.6ポイント低下の5.3と悪化、前回調査予想値(5.3)と同様の結果となった。項目別では、売上・受注で42.1ポイント低下の10.5、売上数量も42.1ポイント低下の15.8、利益でも52.6ポイント低下の▲10.5と各項目で悪化した。

食事処、居酒屋共に集客は維持しているが米を筆頭に原材料高騰が続いており利益確保が難しい状況。価格転嫁した先や経費削減による対応等、今後とも収益確保が問題となる。

来期の見通し

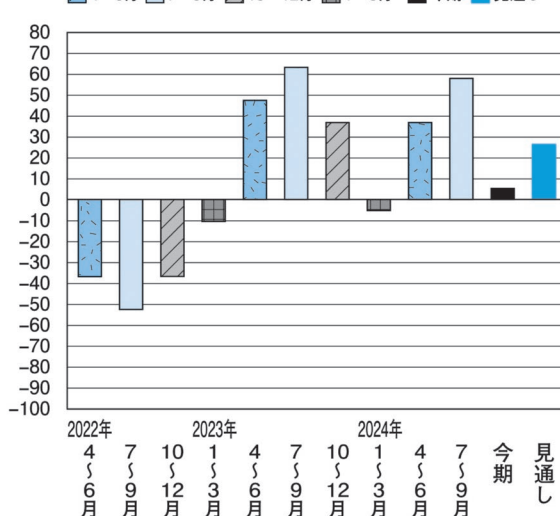
～総合的業況判断は改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比21.0ポイント上昇の26.3と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で10.6ポイント上昇の21.1、売上数量は横ばいの15.8、利益では5.2ポイント上昇の▲5.3と全項目で改善の見通しとなった。

年始や年度末はイベントが控えており業況の改善を見込む声が多い。しかしながら、原材料高騰は続く見通しから収益確保に向けた対応に苦慮している。

業況判断D I 値の推移



不動産業

回答企業9企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比11.1ポイント上昇の▲22.2と改善、前回調査予想値(▲55.6)は大きく上回る結果となった。

項目別では、売上・受注で11.1ポイント低下の▲22.2、売上数量は22.2ポイント低下の▲22.2、利益でも11.1ポイント低下の▲22.2と悪化となった。

冬季間は仲介業務低調となるため売上は減少。管理業務については例年通りで推移している。物件価格の高騰もあり利益減少の先も多い。

来期の見通し

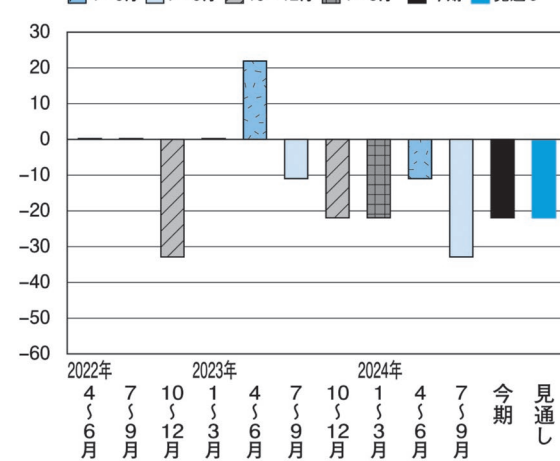
～総合的業況は横這いの見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比横ばいの▲22.2の見通しである。項目別では売上・受注で11.1ポイント上昇の▲11.1、売上数量が横ばいの▲22.2、利益では11.1ポイント上昇の▲11.1の見通しとなった。

季節的には閑散期となるが、異動期を控え物件情報収集などに傾注し、広告・宣伝を強化し3月以降の集客に努めている。

業況判断D I 値の推移



調査要領

- 調査時期 2024年12月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内290社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」 「やや増加(やや上昇)」 したとする回答と、「減少(下降)」 「やや減少(やや下降)」 したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。